



あの日の「出発進行」から百年が経ちました。

長崎電気軌道 100年史

NAGASAKI ELECTRIC TRAMWAY

人に、地球に、やさしい電車

長崎電気軌道
100年史
NAGASAKI ELECTRIC TRAMWAY



ごあいさつ

大正4年（1915年）11月16日に長崎の街を路面電車が走り始めてから100年を迎えることができました。

振り返ってみると開業から今日まで、常に順風満帆の歴史を歩んできた訳ではありません。むしろ苦難の連続であったような気がいたします。長崎への原爆投下、モータリゼーションの到来、長崎大水害など幾度となく経営の危機に直面して参りましたが、そのたびに各方面からのご支援を賜り、そして何よりも利用者の皆様の励ましがあったからこそ困難を乗り越えることができたものと存じます。

この度、開通100周年を迎えその歴史を振り返るにあたり、年史を編纂いたしました。これまで刊行されていた「五十年史」、「ふりかえる二十年のあゆみ」を再編集した上で資料も充実させ、「100年史」として後世に残せるものと考えております。

社員一同、100年というこの大きな節目を新たな出発の時と捉え、今後も長崎市民の足として、また観光のお客様には「長崎の顔」として愛され親しまれる企業を目指して参ります。

最後に今日まで当社運営に関わって頂いた全ての皆様に深く感謝申し上げます。

平成27年11月

 長崎電気軌道株式会社
代表取締役社長 中島 典明

歴 史

創業時代から戦前

発起から創業	8
軌道敷設特許状	12
電気事業経営許可	13
歴代代表取締役社長	14
当時の乗客誘致	16
連絡船開業	17
歴代の電車車庫	18

苦難を乗り越えて

戦争による被害	20
バス事業	22
長崎大水害	24

昭和から平成へ

長崎西洋館	26
ビール電車	28
超低床車両導入	30
100円運賃の改定	32
情報発信	34
路面電車まつり	36
電車開通記念事業	38

今昔写真	42
------	----

これからの長崎電気軌道	60
-------------	----

運 輸

運 転

運転系統の変遷	62
運行ダイヤ・乗務ダイヤ	64

乗車券・運賃

各種乗車券	72
運賃変遷と当時の物価	78

安全管理体制・教育

安全管理体制	80
教 育	82

設備の充実化	86
--------	----

施 設

線路・電気

線路概要	94
------	----

電気概要	98
施設改修	106
信号保安	111

停 留 場

停留場概要	113
停留場諸元表	124
停留場変遷	126
施設概略図	130

車 両

車両変遷

形式別概要	132
車両戸籍簿	146

車両図表

車両主要諸元表	152
車両竣工図表	154

広告・不動産

広 告

広告事業の取り組み	166
広告一覧	171

不 動 産

所有土地一覧	176
--------	-----

総 務

組 織

組 織 図	180
組織変遷・従業員数	181
歴代役員	182

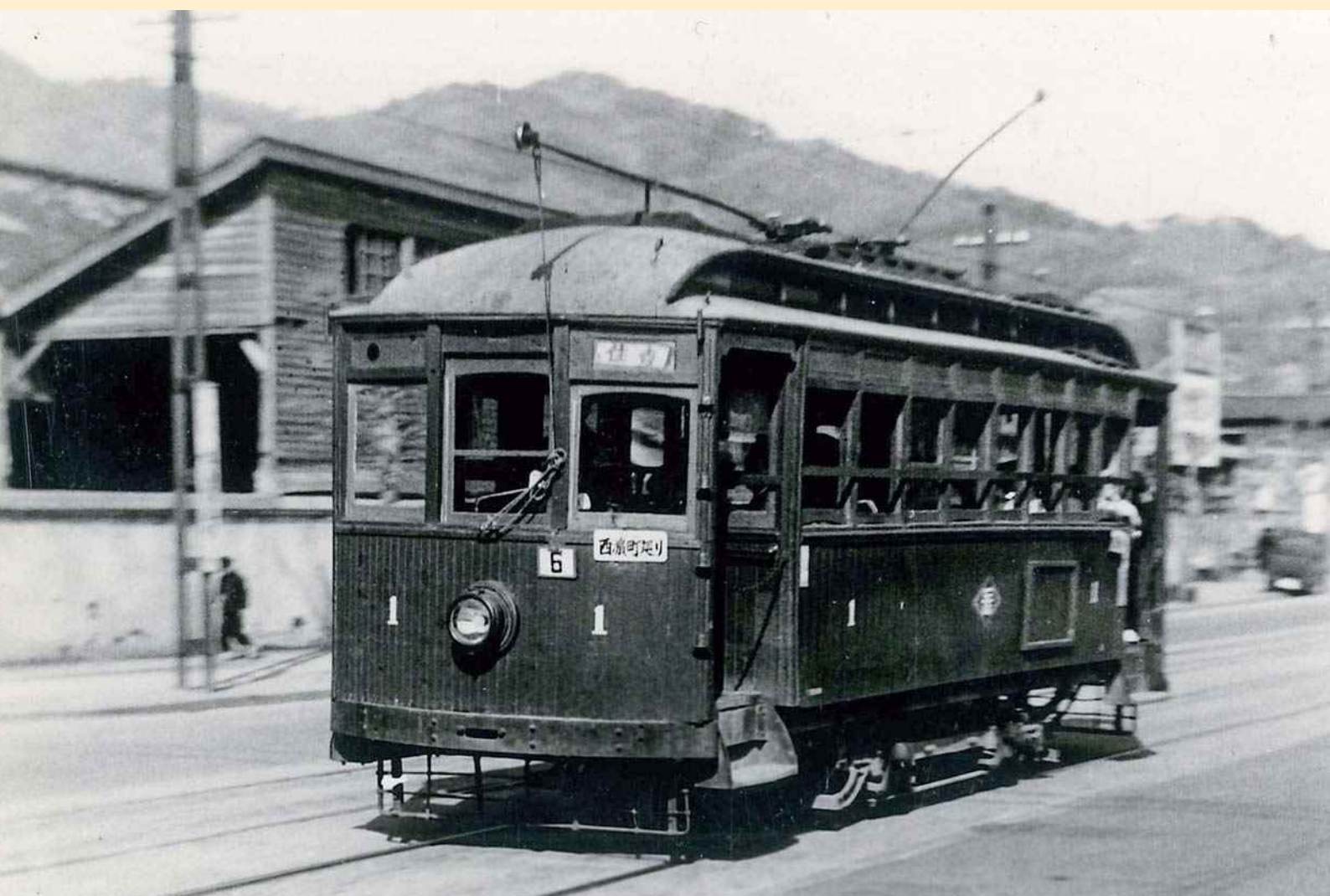
財務・労務

貸借対照表・損益計算書	190
ベースアップの変遷	194

年 表

歴史

歴史と共に走り続けて



願した長崎電気軌道株式会社を加えると、長崎市内及び近郊、さらに現在観光の花形路線の長崎から小浜から雲仙間の電車による交通網が出来上がる情勢にあった。

しかし、結局実現したのはわが社のみであり、他の計画はみな陽の目を見ずに終わってしまったのである。それだけに浦田進太郎氏他20名で出願してから、会社設立に至るまでの辛苦はなみなみならぬものであったと察せられる。

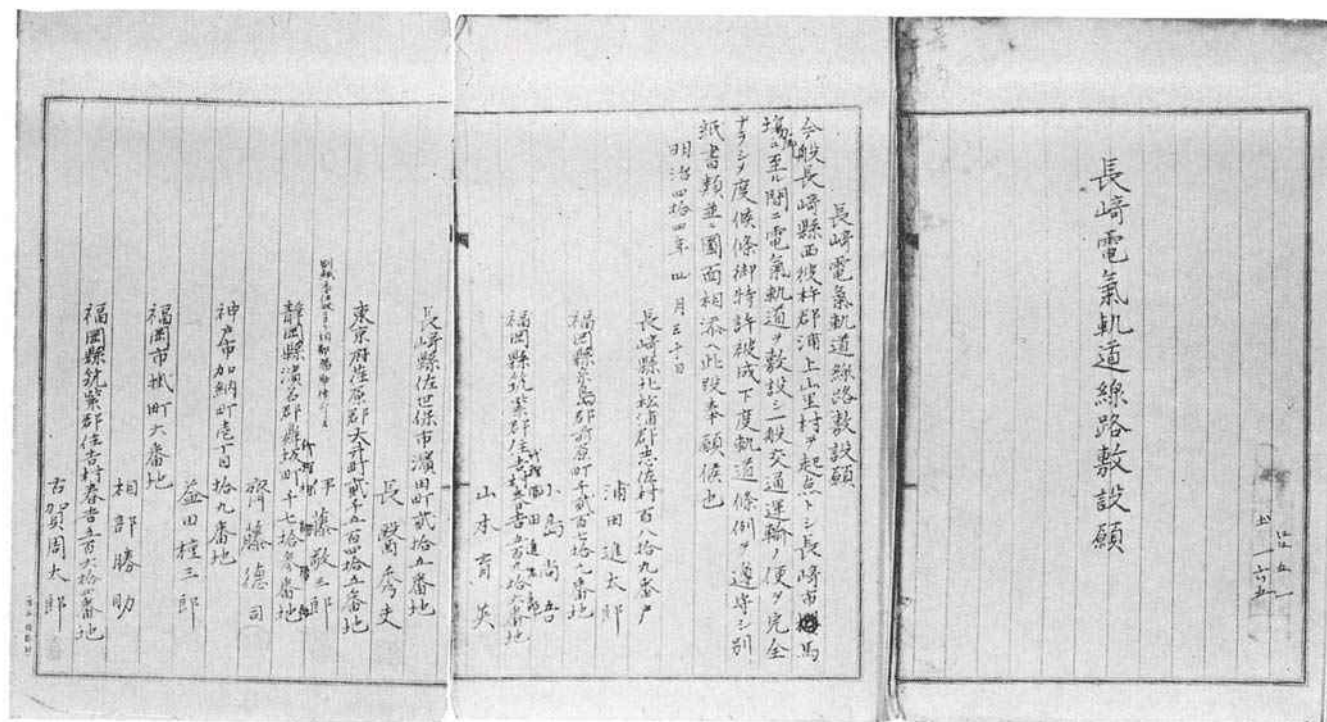
明治44年3月、長崎県参事会員浦田進太郎氏は福岡の博多電気軌道取締役小島尚吾、佐世保の長医秀夫の諸氏とはかつて長崎に市街電鉄の創設を計画、これに阪神地方並びに本県有力者が加わって、長崎電鉄創設仮認可申請書を県内務部長に提出した。

この時の計画内容は資本金を150万円とし、発電所を台場町の埋築地に設け、路線は第1区、小曾根町三菱炭鉱社前～浦上～道の尾～時津、第2区、玉江町～大波止～中川郷螢茶屋、第3区、台場町～中

町～第2区接続、第4区、税関前～梅ヶ崎～寺町～新橋町中通～伊勢町～第2区接続、第4区、福富町～稲佐海岸通り～飽の浦ということであった。

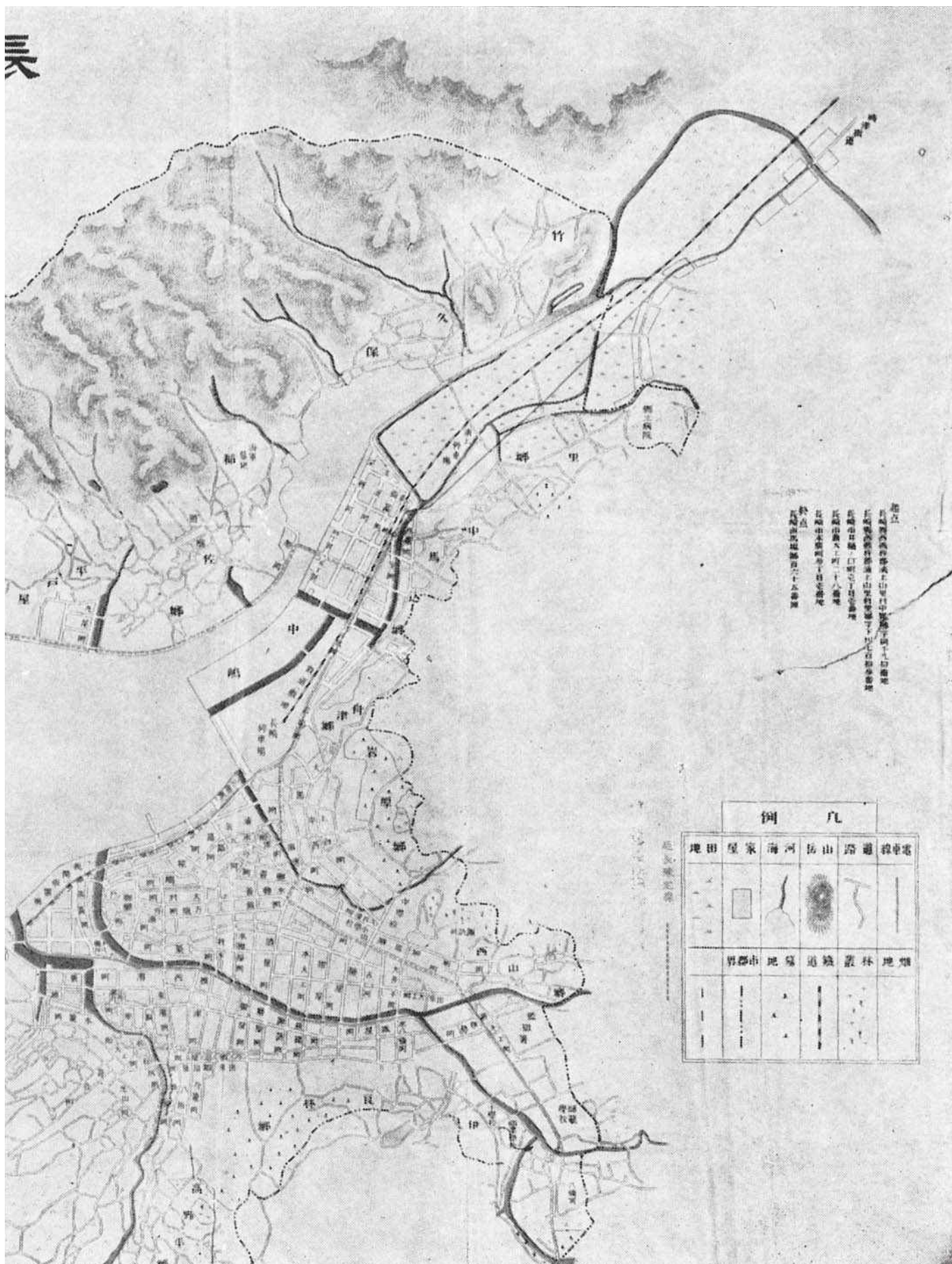
しかしその後、資本金を120万円とし、浦上山里村～市内桜馬場間4哩30鎖の軌道敷設を同年4月11日出願した。ところが市は「書類不備」の故をもって簡単にこれを却下した。そこで再び4月24日再出願に及んだが、市で調査中に県土木課から照会があり、書類は同課に回送され6月3日になって県もまた「書類不備」で却下してしまった。(明治44年6月2日付土第1079号で秦内務部長から北川市長あてに「長崎電気軌道布設願ノ件ハ相当手續ヲ経進達相成度別紙及返戻候也」とある)

当初の発起人は何名であったか不明であるが、第一次出願時は9名、第二次出願時は3名追加して12名となっている。その後さらに2名加わり、後述の市街電鉄協議会の結果、長崎市内から7名追加されて21名となった。



明治44年 4 月出願の計画線路図

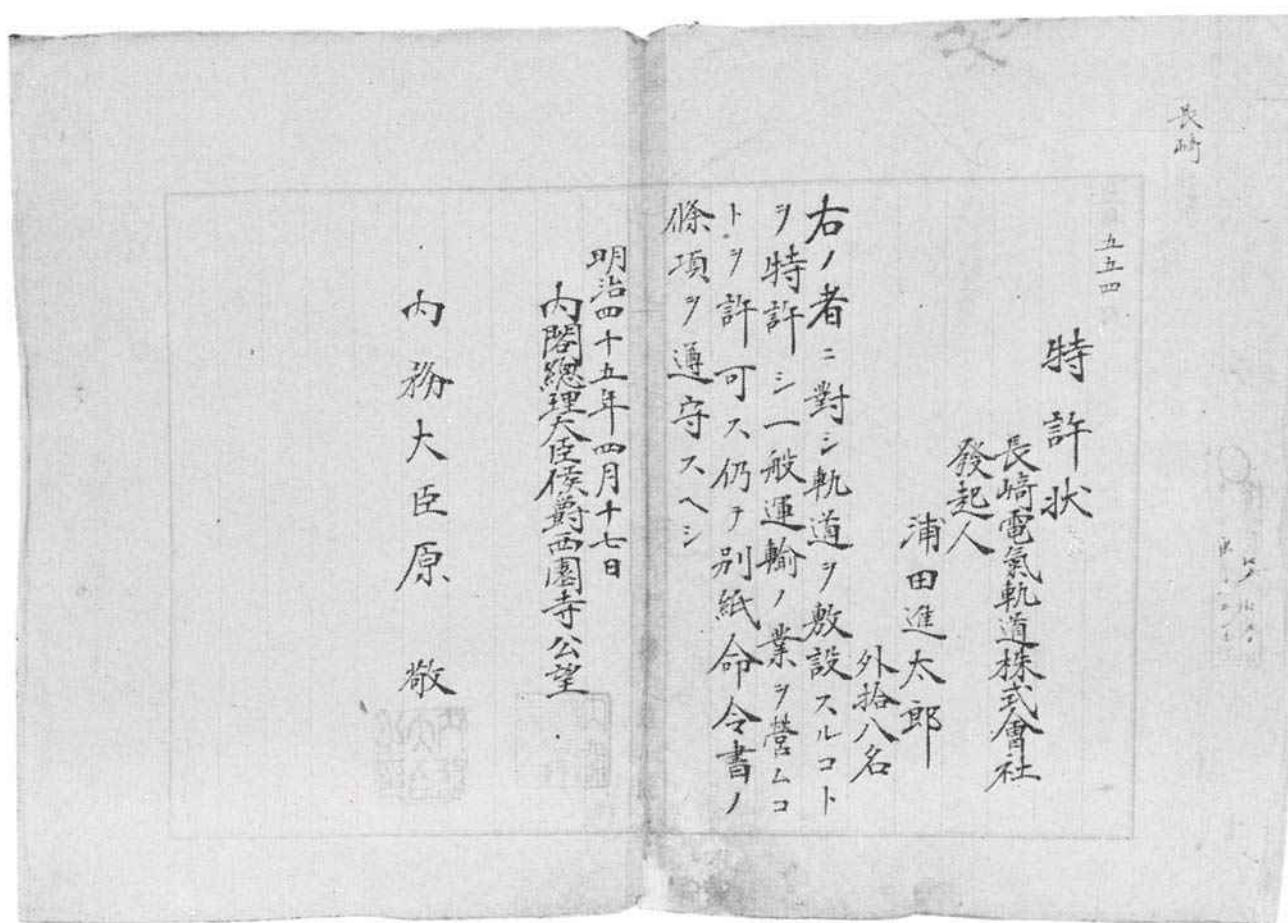




軌道敷設特許状（明治45年4月）

明治45年1月中にも特許の見通しであったが、やや長引きそうな気配に2月12日、知事・市長の上京を機に佐世保の長医秀夫、神戸の益田種三郎の両氏も共に上京して特許促進の運動を行った。

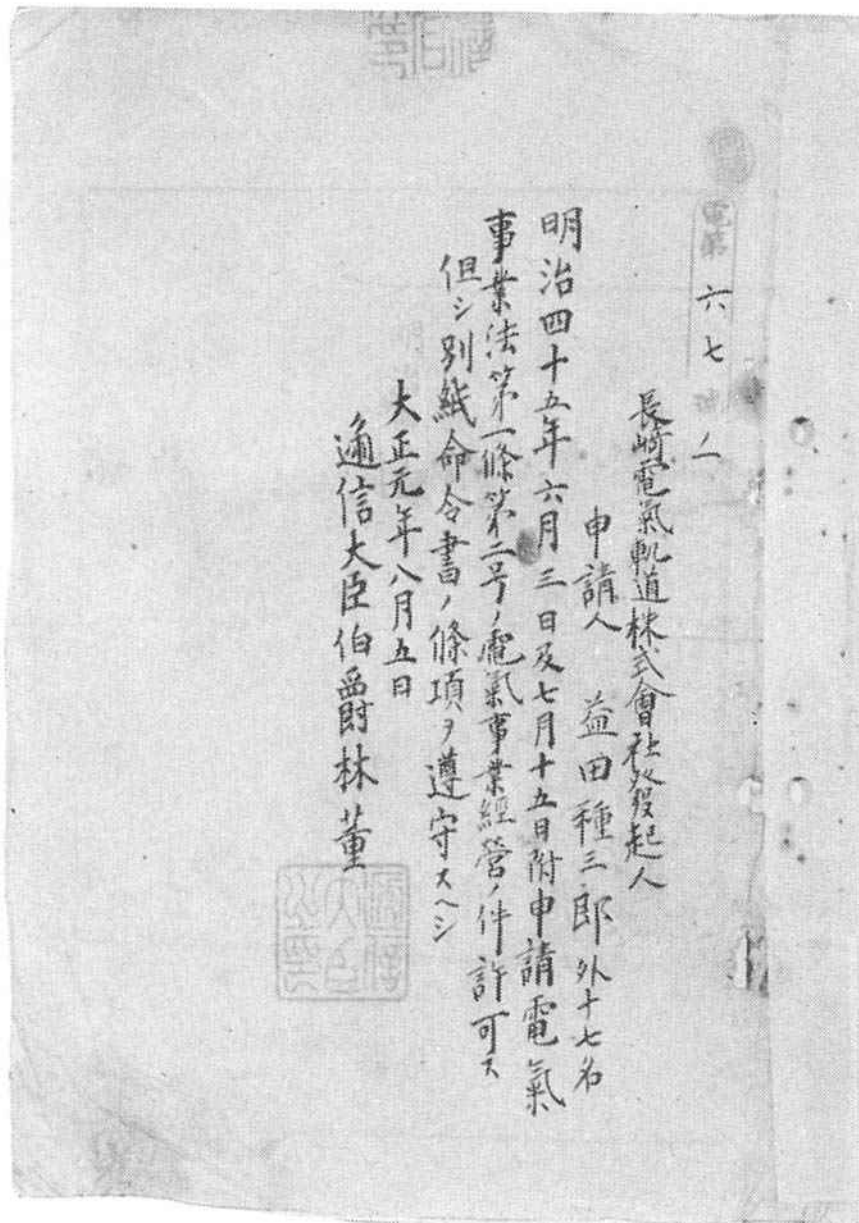
そして、明治45年4月17日をもって待望の特許状が下りた。（この特許状は明治時代の代表的書家の一人、巖谷一六の筆になるもので、書としても貴重なものである。）



電気事業経営許可（明治45年6月）

軌道敷設の許可を得たので発起人はまずその命令書第4条に基づき、明治45年6月3日付をもって「電気事業経営許可申請書」を通信大臣に提出した。

この時は電灯電力の供給事業を兼営することにしたので資本金を増し、170万円として起業目論見が作成された。



歴代代表取締役社長



初代代表取締役 **益田 種三郎**
T 3. 8. 2 ~ S 4. 10. 28



二代 **山田 鷹治**
S 7. 4. 4 ~ S 18. 5. 5

当初創立の企画主唱は、浦田進太郎氏によってなされたが、浦田氏は創立を見ずして病に倒れたので、初代の専務にはその後を受けて発起人総代となった益田種三郎氏が選ばれた。

益田種三郎氏による会社設立書面（大正3年）





三代 脇山 勸助
S19. 4. 30～S45. 6. 30



四代 八尾 直三郎
S59. 6. 28～H. 2. 3. 2



五代 中村 利夫
H 2. 3. 2～H10. 6. 29



六代 佐藤 龍太郎
H10. 6. 29～H20. 6. 26

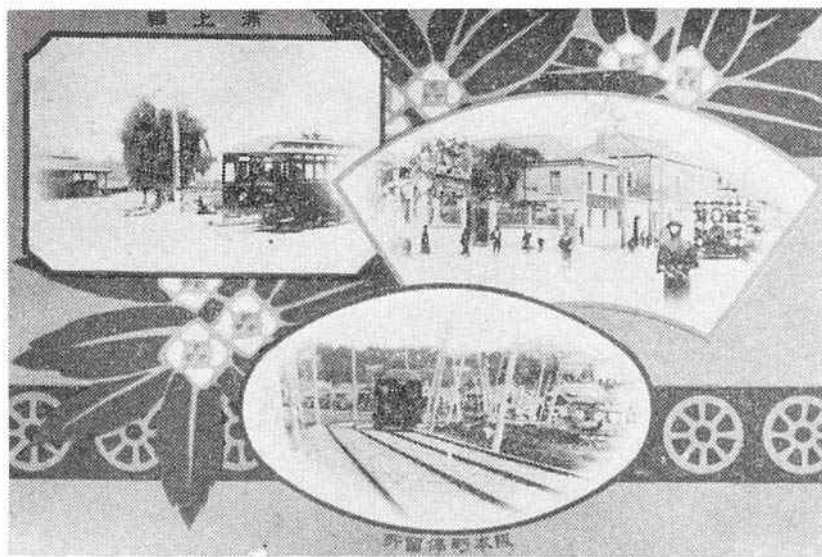


七代 松本 容治
H20. 6. 26～H27. 6. 25

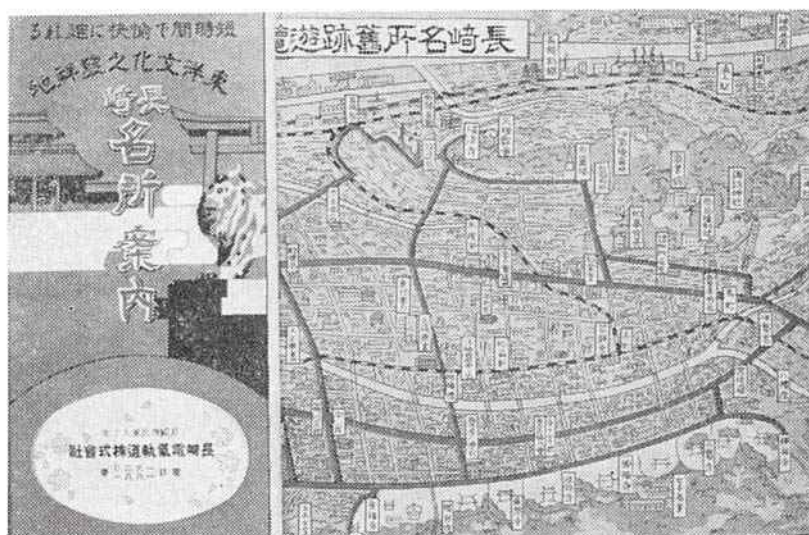


八代 中島 典明
H27. 6. 25～現在

当時の乗客誘致



①大正5年発行の絵はがき



②昭和10年発行の沿線案内書

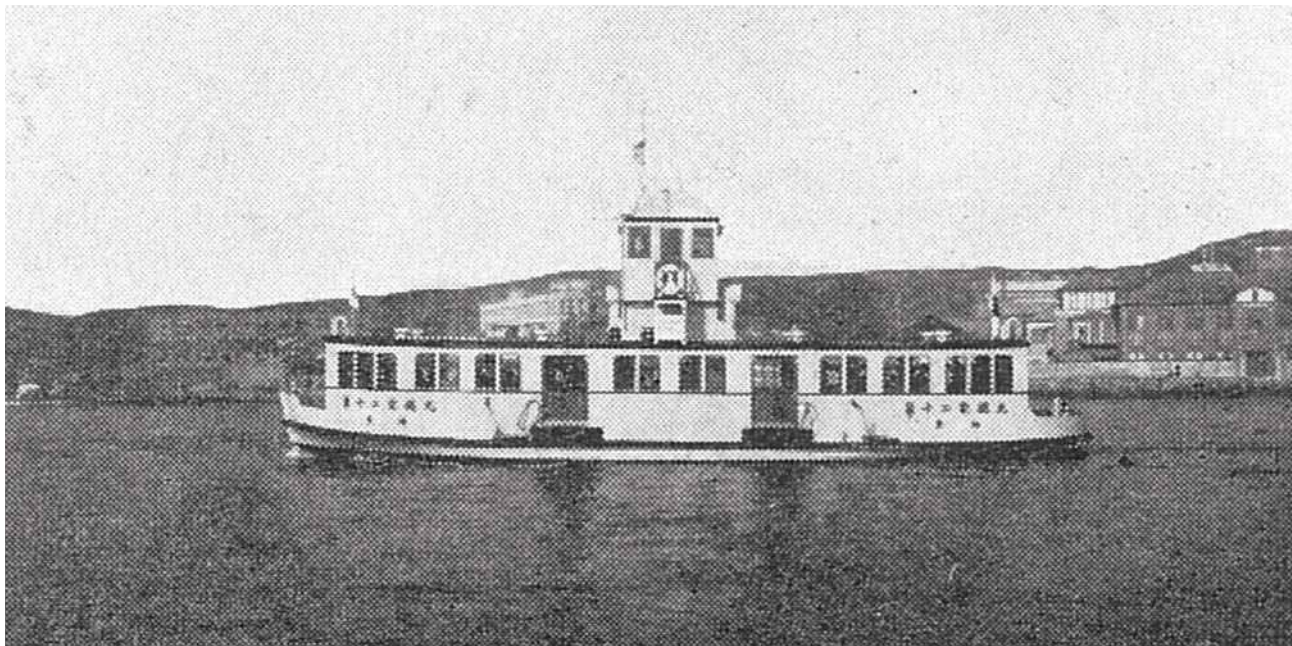
乗客誘致の運動は交通業者がいずれも考えることであり、いろいろな形において現在でも実施されているが、当社が大正7年に始めた納涼園は当時の長崎市民の間で非常に人気であった。

開業当初のことであり、市民に乗車の習慣をつけるために開催されたのであるが、その目的達成に大いに与かって力があったと思われる。それは大正7年7月～9月の3ヶ月間に入場者数155,731人という記録を見ても納得されるであろう。当時の市民全員が一度は入場した勘定になる。

納涼園は夏季だけのものではあったが、大正5年には当社開業のPRを目的として、電車の①絵葉書を

5枚1組で作成した。当時としては誠に画期的事業であったので、これは大いに効果があったようである。大正13年には「長崎土産」なるパンフレットを作成して配布した。これは写真の表紙で、内容は料亭や各検番の芸者を顔写真入りで紹介したものであった。昭和10年になって今度は②「長崎名所案内」を発行した。「短時間で愉快地廻れる東洋文化の発祥地」という見出しで、長崎の名所旧跡を示した路線図を作り、裏には各名所の説明をつけた。今日からすれば幼稚なものではあったが、乗客誘致の積極性がうかがわれ、当時としては相当の効果をあげたものと思われる。

連絡船開業（大正14年5月）



大正12年10月8日の役員会において港内連絡船の開業を決議し、10月27日の定時株主総会で定款の目的事項の変更を行ってその準備にとりかかった。これは、開業当時からの電車延長計画を連絡船をもって実行しようとするものであった。

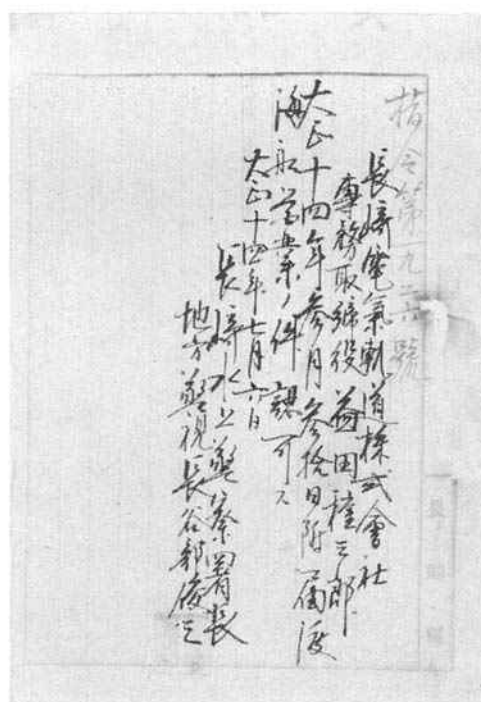
大正14年5月、三菱造船所において電鉄丸6隻を完成、同年7月に旭町、水の浦航路、12月に戸町航路の営業を開始した。これは船のみ6銭の戸町航路を除き、船車連絡無料、船のみ3銭という、あくまで電車の延長線という考え方であった。このようなことは他都市にその例を見ないもので、当時電鉄自慢のサービスであった。

この連絡船計画に当っては始め長崎交通船株式会社にその航路の譲渡方を交渉したが不調に終わり、この間に長崎市がこれを買収したので結果的に長崎市と競争の形となった。益田専務は「当社の汽艇は電車の延長で決して競争ではありませんぬ」といっているが、結局これが後年、航路協定、譲渡の問題を起こすこととなった。

尚戸町航路は鎮西汽船と競争状態にあり同社と運賃の協定をして船車連絡していなかったのが、昭和2年の電車運賃改定時に連絡運輸として昭和5年同社を買収した。又昭和12年、別に西泊汽船を買収、競争航路は長崎市との旭町、水の浦航路のみとなっ

た。

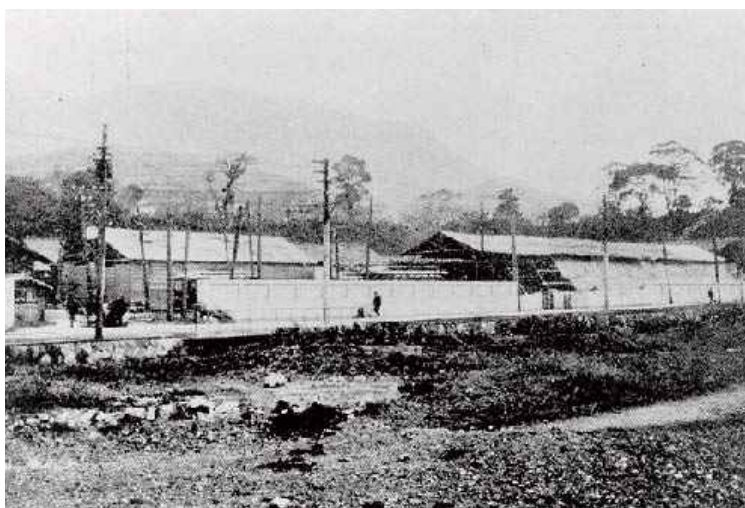
鎮西汽船買収後船舶に余裕を生じたので、三菱工員の対岸への通勤輸送を引き受けることになり大いに活躍したが、三菱が自家用船を建造したため収入は激減し、更に市との調整問題からついに昭和18年12月18日、当社の連絡船及びその設備一切を73万円で市に譲渡した。



渡海船営業認可書

歴代の電車車庫

茂里町車庫 (大正3年10月)



大正3年10月6日、仮車庫建設用地として茂里町の鉄道院浦上駅停車場構内を、3,840.7平方メートル貸下申請、翌4年4月8日付で貸下承認されたのが本車庫で、のち大正5年11月9日付で払下承認を受け、軌道敷と併せ6,386平方メートルを13,522円11銭で同年11月27日払下げを受けている。

当初は各部門の建物がここに集結され、開業の産声を上げた由緒あるところであった。大正5年12月には車体2両分を本工場で製作、その後の製作数は53両に達した。大正13年当社用62・63号車の新製を最後に車両製作部は閉鎖した。昭和12年3月4日蛍茶屋車庫の竣工によって、同年5月1日解体廃止された。

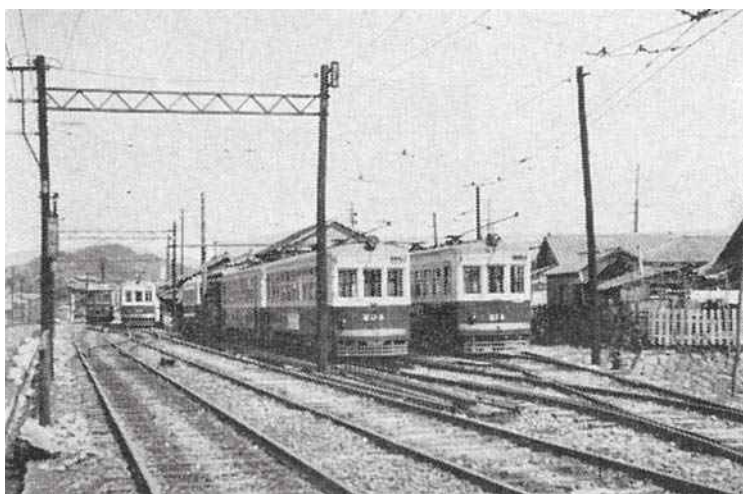
馬町車庫 (大正11年3月)



第三期線完成の翌大正11年3月24日竣工した洋風二階建、806.6平方メートルの車庫である。一階を車庫とし、二階を貸事務所、表通り側を貸店舗としたような建物で、当時としては屈指の建築であり、現在の出来大工町エネオス馬町SS付近にあたる。側線3本線路延長231メートルで約20両の収容力を有した。

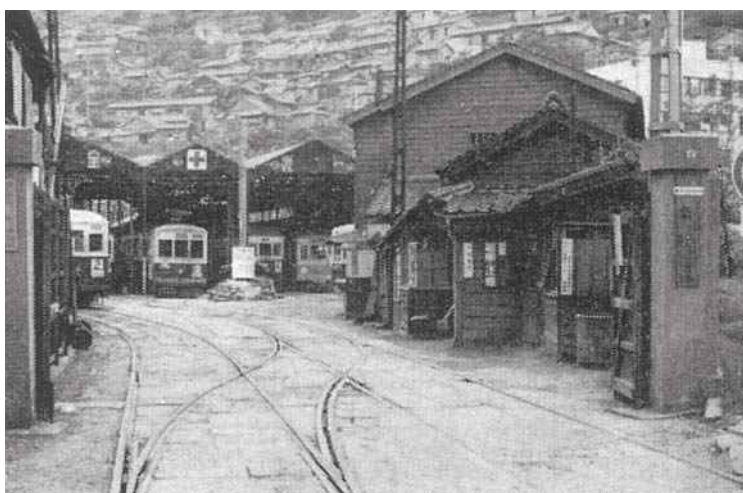
昭和9年10月25日、大橋車庫の開設により閉鎖、本社として改装した。

大橋車庫 (昭和9年10月)



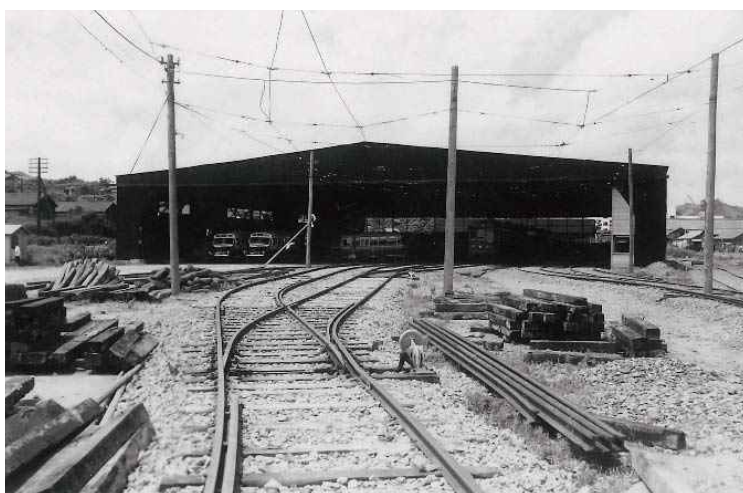
昭和9年10月25日、大橋延長の翌年開設の車庫で現在は長崎バス・長崎私交通労働組合にあたる。木造平屋建車庫644.6平方メートルと側線7本線路延長483メートルのもので、戦中戦後の苦難時代に活躍したが、昭和19年10月10日の出火により電車8両と共に全焼、翌20年8月9日には原爆に被災するなど悲運の車庫であった。昭和9年建設の車庫建造費は同年8月8日の契約書によれば4,615円となっている。

蛸茶屋車庫 (昭和12年3月)



昭和12年3月竣工の工場施設を有する車庫で、建物設備の大半は茂里町車庫より移転した。総面積2,319.2平方メートル、建坪1,305.8平方メートル、側線7本239メートル、ピット5本がある。戦災による被害も比較的僅少で、戦後の車両復旧はこの工場で行われ、戦災復旧車の車体7両、老朽車の車体8両を製作し、輸送力の確保に寄与した。

浦上車庫 (昭和28年8月)



住吉線の延長に伴い車両の増備及び大型化が実施されたため車庫の新設が必要となった。総面積約8,300平方メートルで、約5,000平方メートルを電車車庫、3,300平方メートルをバス関係で使用していた。当初は西町車庫と呼んだが昭和41年9月に浦上車庫と改称された。昭和54年7月には老朽化を理由に建て替えて現在に至っている。

「苦難を乗り越えて

戦争による被害

当社の戦災は昭和20年7月29日の空襲と、同年8月9日の原子爆弾によるものとの2回であった。この時の模様については昭和20年上期第63期の営業報告書に次のように記されている。

「本年3月17日硫黄島における我が軍の敗戦以来敵機の来襲日と共に激し、(中略)7月29日より8月1日に至る4日間爆撃をうけ(中略)当社もまた稲佐橋通り停留場付近爆風により電線路数ヶ所切断され、数日間、営業不能に陥りたり。以来昼夜兼行復旧に努めようやく完成、2～3日運転できたりとよろこびたるも東の間にて、8月9日午前11時、あの恐るべき原子爆弾は当市浜口町上空550メートルの高さにて破裂し、一瞬にして市の北部一帯は壊滅し続いて火災起り、市の3分の1は烏有に帰し数万

の犠牲者を出したり。当社は変電所を初め大橋営業所茂里町工員詰所及び倉庫、大橋寮、浜口寮、銭座寮等全壊後全焼し、車両の焼失破壊21両に及び、電柱の倒壊切損120本、電線及び軌道の焼失数ヶ所にして、従業員の死者百十余名に達したり、以来電車の運転不能となり休業するの止むなきに至れり。」

被害状況は以上の通りであるが、長崎駅前以北の諸施設建物は全部灰塵に帰し、車両は在籍56両中16両を失い、尚且つ可動車は36両程度で、その約半分を失ったことになる。従業員は500人中その23%が死亡、その後四散した者も多く一挙に被爆前の32%程度約160人(車掌は1人もいなくなった)となった。この時の損害額は当時の時価にして50万円程度と推定される。



下の川橋梁



原爆で破壊された電車があった井樋の口



廃墟と化した岩川町付近

バス事業

昭和28. 4. 1 乗合バス営業開始

昭和46. 2. 28 バス事業譲渡

戦後からの日本経済の立ち直りによる物資統制面の緩和によって、長崎市内線としてのバス運行が急激に拡充されてから、遂にやむを得ず軌道業防衛のため、昭和28年4月1日より、蛍茶屋～住吉間の電車路線と並行の市内線バス営業を開始した。その後、都市計画による道路の新設、拡幅等を機に路線を延長するとともに、昭和30年3月1日からは一般貸切バスを、さらに昭和38年9月16日からは定期観光バスも営業、逐次、事業内容を拡充して来たが、当社バス事業の発足が遅れたため、有望路線への進出が極めて困難であり、その路線権も主として電車路線と並行競合的性質のものに限られ、一方において郊外線への進出は極度に抑えられ、逆に他バス会社の郊外線の市中心部への乗り入れ及び郊外系統のつなぎ替えによる市内縦断系統の設定と運行回数の増加、加えてモータリゼーションの影響と、団地、住宅街

の建設が長崎市の周辺部、すなわち当社の路線圏外に建設され、おおむね旧長崎市内のみの旅客を対象としている当社の輸送量の伸びはなかった。

一方支出面においては人件費、諸経費、金利等の膨張等により、営業成績は逐次悪化して、今後バス運賃の値上げ及び合理化努力によっても、なお年を追う毎にバス事業の赤字の累積が予想され、最早軌道業の黒字で補填出来ない事態に立ち至り経営の好転は望めなくなった。このため、当社バス事業用資産を長崎自動車株式会社に譲渡して、電車部門により企業再建をはかることとし、長崎自動車株式会社に譲受方をお願いした。長崎自動車株式会社との話し合いがまとまり、昭和45年5月3日労働組合に対し、バス部門譲渡の内容を提案説明、5月28日譲渡契約覚書に調印し、6月30日の臨時株主総会において承認される運びとなった。



昭和35年 浦上天主堂下付近



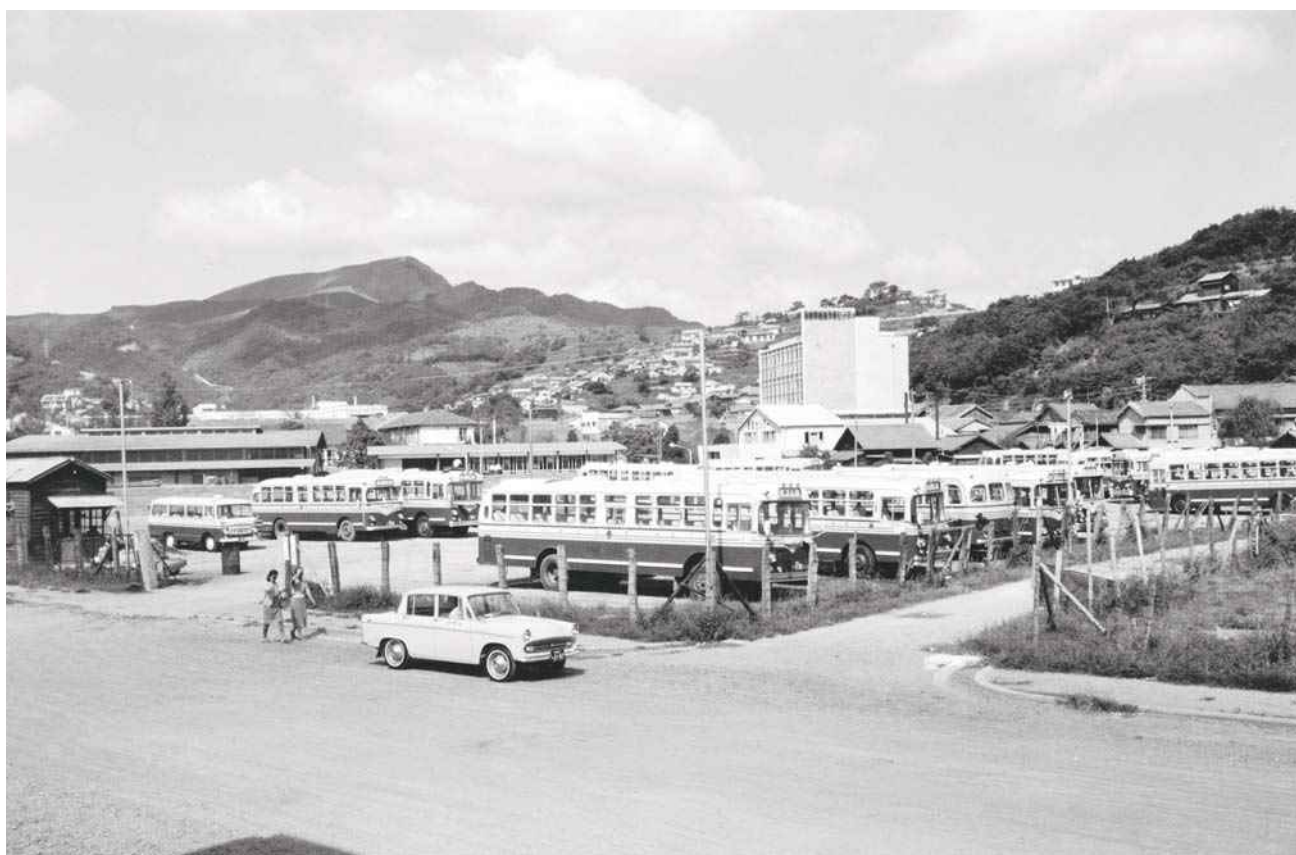
昭和29年 長崎県庁前



昭和34年 西町車庫 日野 BK11型



昭和34年 西町車庫 新車入魂式



昭和40年 油木車庫

長崎大水害（昭和57年 7 月23日）

昭和57年 7 月23日夕刻から降り始めた雨は、梅雨末期の雷を伴った集中豪雨となり総降水量では昭和32年諫早豪雨には及ばなかったが、短時間降水量では長与町などで1時間180ミリを超え、長崎市内でも150ミリにも及び、観測史上最大級の豪雨となり17時頃から24時頃までには500ミリを超える水魔が長崎の街を大洪水の渦に沈め、鉄砲水、山崩れ、家屋の倒壊と299人の人命をのみ込み未曾有の惨事ともなった大水害となった。

当社の被害は

車 両 営業線上の留置車両30両 内冠水車両15両
浦上車庫内留置車両30両 全車両冠水
在籍68両中使用可能車両23両
被害額 70,500千円

軌 道 軌道敷面 破壊 流失
ポイント 軌条等損壊
被害額 50,000千円

通信施設、建物、その他
業務用社内電話設備冠水
西町営業所冠水
その他工事用・連絡用自動車等冠水
被害額 11,000千円

車庫施設 浦上車庫内 約70cm水没及び土砂流入
（西町変電所周辺では約130cm水没）
諸工作機械 保有部品 ピット等水没
被害額 39,200千円

橋梁、信号装置、変電所
岩屋川橋梁損壊、4変電所の内 西町・川口町・出島変電所及び西町制御所が冠水
浦上車庫、蛍茶屋、西浜町、入江町、長崎駅前、公会堂前信号装置及びポイント装置が冠水
被害額 37,200千円

概算しても207,900千円の損害を被り、これに運輸収入減7月・8月分計約52,000千円、兼営事業収入減14,000千円を加えると実に273,900千円の莫大な損害となった。運転現場では23日19時35分、遂に全線に亘り運行を休止、営業線上の30両にのぼる車両は想像を絶する異常災害の中で、それぞれの担当運転士が適切な乗客誘導、車両防護に当たったので、乗客並びに従業員に一人の死傷者も出なかった。運転士は、そのまま担当車両に残り車両監視を続け、翌24日朝になり交替運転士と替ったが、この車両監視は25日深夜の車両撤収まで昼夜間を問わず交替制で連続して行なった。24日には直ちに全社員あがての復旧作業に入ったが、唯一残った天神町変電所が冠水を免れたため、その点検に全力を挙げ、25日になってようやく稼働した。それにともない、まず営業線上の至る所に立往生している留置車両の撤収を図ることになり、25日18時15分開始、26日午前0時35分無事終了した。26日とりあえずポイント・信号は手動操作で、20両の車両で1号系統（赤迫⇄築町）・3号系統（赤迫⇄蛍茶屋）を15時よりシリーズ運転で営業再開した。まだ市内の交通網は混乱したままの時で、電車の運転再開も最悪の場合1ヶ月はかかるのではないかと、といわれていたのがわずか3日後には動き出したのである。ここで非常に幸運なことに、1号フィーダーから5号フィーダーまでの全線送電可能な設備を有する天神町変電所が冠水しなかった事である。他はそれぞれ部分的な送電負荷区間をもつ変電所なので、26日の運転再開は部分的区間でしか出来なかったであろう。とにかく20両の車両をシリーズ運転ではあったが全線に亘り被災3日後に営業再開が出来たのは、天神町変電所が冠水しなかったからである。その後、逐次復旧したが全系統が平常ダイヤに完全復旧したのは9月10日であり、諸施設及び車両の完全復旧は10月下旬までなかった。



西浜町停留場付近



中島川橋梁付近



浦上車庫



車両内



中島川橋梁付近



岩屋橋停留場付近

昭和から 平成へ

長崎西洋館



オープン当時の外観

昭和61年、長崎県は都市再生のカギとして松山運動公園から松ヶ枝地区にいたる南北5km、約112haの带状エリア港湾開発を対象とした「ナガサキアーバンルネッサンス2001」構想を策定し、その開発の一環として松山町から元船町に至る延長約3kmの浦上川線道路計画が策定された。その影響で昭和53年より月極有料ガレージとして営業していた川口町社有地の西側に、浦上川線の高架道路が建設されることとなり、それまで国道206号線沿いにあった当

社線路が、社有地を分断する形での移設を余儀なくされることとなった。その跡地の有効利用のため商業ビル「長崎西洋館」の建設が計画され、平成2年11月30日にオープンを迎えた。

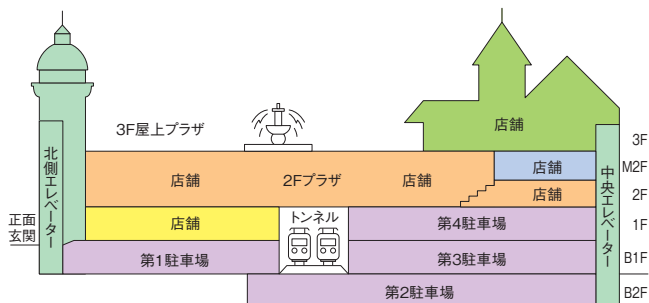
「長崎のエキゾチックな魅力をひとつの街として創り上げる」というコンセプトを基に、長崎の街に相応しい異国情緒溢れる意匠となっている。また建物の中を路面電車が走り抜けるという全国でも初めての試みとなった。



オープン時のセレモニー



オープン時の来館者



長崎西洋館の概要

- 所在地 長崎市川口町13番1号
- 敷地面積5,271㎡ ○建築面積4,735㎡
- 延床面積19,356㎡ ○店舗面積5,466㎡
- 規模 地下階地上3階建て
- 鉄筋コンクリート造
- 駐車台数 210台
- 店舗区画数 23区画（当初区割）



現在の外観

ビール電車

お越しの際は公共交通機関をご利用下さい。



ご好評につき、増便いたしました。

納涼ビール電車

ビール・水割り(焼酎・ウイスキー)・ウーロン茶飲み放題!!
※お弁当付きです。

運行 期間	7月4日金～9月20日金	運行 時間	19:00～20:30	運行 料金	お一人様料金【税込】 ¥3,000	貸切料金【税込】 ¥64,800
予約受付 開始	6月9日 【7月21日・9月15日は除く】 毎週月～金曜日10:00～17:00	完全電話予約制(先着順) TEL(095)826-9462 専用電話番号のみの受付となります。※予約受付開始日以降別途致します。 【ご注意】金・土曜日は1回のご予約につき6名様迄とさせていただきます。	運行 経路	出発19:00 → 螢茶屋 → 長崎駅前 → 浦上車庫 正覚寺下 のコース1周 → 1時間30分 到着20:30 ← 出島 ← 長崎駅前 ←		

主催/長崎電気軌道株式会社 協賛/長崎西洋館・サッポロビール株式会社 【ビール電車空席情報】電鉄ホームページまたは携帯ナビネット 長崎電気軌道株式会社 検索

平成26年告知ポスター



現在のデザイン



内装



過去のデザイン

電車を改装し、生ビール・水割り・ウーロン茶と軽食を提供する納涼ビール電車。夏季限定の企画で平成4年より運行している。

夏の長崎の黄昏を20年以上走り続けている。今では夏の風物詩として定着し毎年長崎市民に夏の到来を告げている。

正覚寺下19:00発→蛸茶屋→(桜町経由)→浦上車庫→(大波止経由)→正覚寺下20:30着、というルートで1時間半ビール飲み放題。ビール電車開始当初は18:30発だったが現在では19時発となっている。

1日1便24席限定で完全予約制。日曜と祝日、8月9日と15日が運休。金曜土曜以外は貸切も受け付けている。

運行中はクイズ大会があり、全問正解者の中から抽選で各種賞品が提供される。

毎年運行開始の約1ヶ月前から予約を開始するが、予約開始初日のうちにほぼ完売している。

外向きに設置されたカウンター席で乾いた喉を潤しながら眺める夕暮れの風景は、通勤通学で見慣れた普段の長崎の街とどこか異なるように見える。

超低床車両導入（3000形・5000形）



超低床車両



3000形パンフレット



5000形パンフレット

超低床車両の導入については平成10年頃より検討を行っていたが、当社の勾配、曲線や上下線の狭小な間隔等の路線条件や、昼間でも多い観光客等の乗降客への対応がワンマンでも可能であるという運用条件に適合した超低床車両が国内外を問わず見当たらず、一日でも早い導入の日を待ち望んでいたところ、ようやく当社での運用に適した国産の超低床車が開発され、平成15年度より導入を開始した。



当社初の超低床車両3001号



3000形はアルナ車両(株)にて開発されたリトルダンサー A 3 タイプをベースとしたリトルダンサー U タイプであり、平成15～17年度にて3両導入された。

A 3 タイプから台車構造や主電動機及び台車の配置等が大幅に見直され、国産ではこれまでになく無駄なスペースを極力抑えた3連接の客席100%超低床車両を実現している。また、国産初の電気式プラグドアを採用すると共に A 3 タイプのエアレス仕様を継承しており、軽量化、省メンテナンス化も図られている。

なお、3000形は平成16年にグッドデザイン賞、平成17年にローレル賞を受賞している。



3000形の発展形である5000形



5001号出発式

5000形は3000形と同じくアルナ車両にて開発されたリトルダンサー Ua タイプであり、平成22、23年度にて2両導入された。

3000形の発展形として開発された5000形では、3000形同様の3連接の客席100%超低床車両としているが、両先頭車両（A、B車）の座席配置等の見直しにより客室内の通路幅の拡大を実現している。また、3000形で採用した電気機械式ブレーキ（EBI）装置は使用せず、交流式の HS-5 型電動空気圧縮機を搭載し、ブレーキシリンダー付の台車を採用することによるエアブレーキを採用している。

100円運賃の改定

平成21年 **10月1日**より

大人 均一
120円

小児 均一
60円

その他の運賃改定

定期券	通勤	1ヶ月	4,830円
		3ヶ月	13,330円
	高校	1ヶ月	4,110円
		3ヶ月	11,350円
	中学	1ヶ月	3,750円
		3ヶ月	10,350円
	小学	1ヶ月	1,620円
		3ヶ月	4,480円
	通勤通学		6,530円
	全線		9,650円
一日乗車券(紙製)	大人	500円	
	小児	250円	

※スマートカード回数券を利用時には新運賃を適用いたします。

※旧運賃にてご購入された定期券は使用期限までご利用いただけます。

 長崎電気軌道株式会社 TEL.095-845-4111

運賃改定告知



長崎市で路面電車を運行する長崎電気軌道(松本容)は、9月30日の運行終了後、人口減少やマイカー普及による乗客の減少に加え、今後、バリアフリー対応の低床車両の導入や軌道補修など安全確保の整備が必要で、悪化する財政状況を改善することを目指す。日本一安い運賃は維持する。

治社長)は、来月1日から大人均一運賃を100円(子ども50円)から120円(子ども60円)へ値上げする。運賃改定は、1984年に大人を10円引き上げて以来25年ぶり。

同社によくと、値上げは、人口減少やマイカー普及による乗客の減少に加え、今後、バリアフリー対応の低床車両の導入や軌道補修など安全確保の整備が必要で、悪化する財政状況を改善することを目指す。日本一安い運賃は維持する。

9月30日の運行終了後、所有する80車両に示している料金表示の張り替えや、非接触型集積回路(IC)カード「長崎スマートカード」の設定変更の作業を始める。同社は「スムーズな改定を心掛けた」としている。

平成21年9月30日付 長崎新聞

路面電車
あすから運賃120円
子ども60円 25年ぶり値上げ



旧運賃箱

新旧運賃表

種 別				現 行	申 請
定期 外	普通旅客運賃	片道券	大人	100	120
			小児	50	60
	団体旅客運賃 一人当たり	中学生以上		90	100
		小学生		45	50
	IC 回数券	積み増し1,000円単位		1,000	1,000
	特殊旅客運賃	一日乗車券	大人	500	500
			小児	250	250
	貸切運賃	大 人		7,700	8,640
		小 児		3,850	4,320
定期	定期旅客運賃	通勤	1ヶ月	4,200	4,830
			3ヶ月	11,970	13,330
		高校	1ヶ月	3,600	4,110
			3ヶ月	9,940	11,350
		中学	1ヶ月	3,300	3,750
			3ヶ月	9,110	10,350
		小学	1ヶ月	1,500	1,620
			3ヶ月	4,140	4,480
		通勤通学		5,700	6,530
		全 線		8,400	9,650

九州運輸局に提出した「上限運賃変更認可申請」の申請理由原文

弊社は昭和59年6月1日に現在の100円運賃を実施して以来、25年間値上げすることなく、軌道事業を営んでおります。その間、平成元年の消費税3%導入や平成9年の消費税5%導入という大幅な減収要因もありましたが、「100円」というワンコイン均一運賃の明瞭さと利用しやすさを輸送人員増加対策の最大のメリットとし、営業してまいりました。

しかしながら地元長崎市においては、少子高齢化や若年者の県外流出による沿線人口の減少や、マイカー通勤者の増加等マイナス要因により当社の輸送人員は、平成6年度をピークに減少に転じ、今日に至っております。その一方で雇用の安定化や軌道補修費の増加等が収支を直接圧迫し、また設備面では顧客満足度の高まりや平成12年に施行された「交通バリアフリー法」に対応するための停留場の改善、平成15年度からは LRV 車両を延

べ3両導入致しました。また他の公共交通機関との相互利用を図るため、平成19年度には県内バス事業者と共通乗車が可能な IC カードを導入する等設備の近代化を図っている所ではございますが、一方では多額の資金と減価償却費の増加を伴い、経営的に非常に厳しい状況下にあります。

また将来計画におきましても、今後3年間で LRV 車両の導入をはじめ積極的な設備投資と軌道整備を中心とする安全投資の実施を進めて参りたいと考えております。

当社といたしましても、長崎市内における公共交通機関としての使命に鑑み、今後も全社あげての企業努力を致す所存ではありますが、安全性の向上やサービス改善を図るため収支の改善が必要でありますので、適正な運賃の確保が早急に必要と考え、今回の申請に及んだ次第であります。

情報発信

人に、地球に、やさしい電車



長崎電気軌道株式会社



上記画像はイメージです

Information Click here to check this information in English, Chinese and Korean. (PDF)

English

Chinese

中文-簡体

中文-繁体

Korean

長崎電気軌道モバイルサイト「ナビネオ」
右記QRコードからアクセスして下さい



「長崎電気軌道公式フェイスブック」
<https://www.facebook.com/nagasaki-denikidou>



〒852-8134
長崎電気軌道株式会社
長崎市大橋町4番5号
TEL 095-845-4111
FAX 095-843-2609

『広告・不動産に
関するお問合せ先』
広告事業部
TEL 095-826-9304
FAX 095-825-7052

新着情報

平成26年09月08日
★「映画展覧」のお知らせ！
 平成26年09月08日
★「団体ナビネット」(競技会場案内)のお知らせ！
 平成26年09月01日
 長崎電気軌道公式「フェイスブック」開設しました！
 平成26年09月01日
★電車内・停車場でのWi-Fiサービスのお知らせ！

Line figure/Time table 電車路線案内図・時刻表

Ticket 運賃・一日乗車券・定期券

Nagasaki Smart Card 長崎スマートカード

Business Information 企業情報

Vehicle 車両案内

Barrier-free バリアフリー

Goods 電車グッズ

Nagasaki Electric Tramway Museum 長崎路面電車資料館

Advertisement 広告事業

Garage Apartment/Mansion 電鉄駐車場／賃貸住宅案内

電車運行状況 事故、災害等で大幅な遅延が見込まれる場合に、運行状況をお知らせします。

低床車運行状況 低床車運行情報等提供サービス「ドコニ」は、携帯電話・スマートフォン等で全ての低床車の運行状況をリアルタイムに把握できます。
※詳しい内訳はこちら ダウンロード

[旅客運送規則\(PDF\)](#) [当社からのお願い](#) [ご意見・ご要望](#)

Copyright 2002 Nagasaki Electric Tramway, Co. Ltd. All Rights Reserved.

公式ホームページ <http://www.naga-den.com/>






長崎電気軌道運行情報 (公式)
 @NagadenTraffic
 長崎電気軌道の運行状況をお知らせします。個別のご意見・質問には返信できませんのでご了承ください。
naga-den.com
 © 2012年1月に登録

ツイート 1

フォロー 301

その他 ▼

ツイート ツイートと返信

◀ 長崎電気軌道運行情報 (公式) @NagadenTraffic · 8月18日

平常通り運行しています。
事故、災害等で大幅な遅延が見込まれる場合、こちらでお知らせします。

ツイッター公式アカウント @NagadenTraffic

近年のインターネット利用の一般化、スマートフォンの普及等により、社会全体の情報化が進み、情報提供に対する利用者の需要は高まっている。特に重大事故や各種異常時における運行状況の発信の重要性は増す一方である。

近年の各種 SNS が広まる中で、発信する情報の性格、伝達方法、利用者層等を考慮しながら当社の情報発信チャンネルも多様性を持たせている。

公式ウェブサイト（PC 向け、モバイル向け）では路線、運賃、時刻表、会社情報といった一般的な情報をはじめ、バリアフリー情報、グッズの通信販売、各種兼営事業の情報を掲載している。

「ツイッター」と九州運輸局が運営するメールサービス「九州のりもの info」、当社のメールサービス「ナビネットメール」では、事故や異常時にプッシュ式で利用者へ通知するサービスを運用している。

また、「フェイスブック」でも公式ページを開設しており、フェイスブックでは事故や異常時の情報以外にも各種イベント情報や様々な話題、沿線の写真等を投稿し、プッシュ式の広報チャネルとしても活用している。ページへの「いいね！」登録数は約 2,000 人（H27. 8）で現在でも順調に登録数を伸ばしている。



公式フェイスブックページ

・情報一覧は更新順に最大20件表示されます。

■運行(航)情報一覧			
日付	事業者名	更新概要	
09/22 10:44	鹿児島県 瀬戸内町	運航状況	詳細
09/22 10:13	天草エアライン(株)	運航調整	詳細
09/22 08:47	奄美海運(株)	条件付き運航	詳細
09/22 08:30	マリックスライン(株)	船舶動静	詳細
09/22 07:00	嵯峨島旅客船(有)	第2便運休	詳細
09/21 23:00	(有)木口汽船	フェリーひさかドック時ダイヤ	詳細

■案内情報一覧			
日付	事業者名	更新概要	
09/22 10:40	鹿児島県 瀬戸内町	運航状況	詳細
09/22 09:13	マルエーフェリー(株)	台風16号	詳細
09/21 08:14	奄美海運(株)	ドック入り案内	詳細
09/11 11:00	唐津汽船株式会社	ドック入渠案内	詳細

このサイトは、九州全線の公共交通機関、鉄道(JR九州・西鉄・地下鉄)バス、フェリー、航空の運行(航)情報を提供しています。

現在120社の参加事業者の情報が随時更新されています。

「九州のりもの info.com」は携帯電話からもご利用になれます！！
 >>>携帯電話からのご利用方法はこちらをご覧ください。

九州のりもの info <http://www.norimono-info.com/>

路面電車まつり

第15回



2014年 11月16日
（土）
10:00～16:00

長崎電気軌道浦上車庫 / 長崎西洋館
（浦上車庫は雨天決行せず） （長崎西洋館は（雨天決行））

路面電車まつり生中継が詳しくはHPをご覧ください。



浦上車庫会場に
駐車場はございません。

長崎電気軌道株式会社



浦上車庫会場

- 電車と模型車
- 鉄道模型体験
- 鉄道コーナー
- 鉄道商品販売
- クイズラリー

長崎西洋館会場

- ミニコンサート
- マジックショー

● 電車グッズ販売

● お絵かき電車

● 北沢電気コーナー

● 名品販売コーナー

● 駅内動物見物

● 資料販売電車

● 鉄道模型コーナー

● 鉄道模型大会

● 電車資料展

長崎電気軌道株式会社200部

チョコQ 発売開始

800円



長崎電気軌道株式会社 長崎市大町4-6 TEL: 095-845-4111

長崎電気軌道株式会社 長崎市大町4-6 TEL: 095-845-4111

長崎電気軌道株式会社 長崎市大町4-6 TEL: 095-845-4111





ミニ電車



運転操作体験



グッズ販売



お仕事体験



電車と綱引き



お絵かき電車

電車開通記念事業

電車開通80周年



80周年電車展会場



80周年電飾花電車



西洋館入口に展示された700形前部



80周年記念乗車券



浦上車庫会場での「ワクワク体験学習」

電車開通90周年



90周年電車展会場



90周年お絵かき電車



他都市から来た電車のパレード



90周年記念乗車券

平成に入ってからの開通80周年・90周年記念事業は長崎西洋館をメイン会場として実施された。

メイン会場では古写真、パネルといった各種資料展示、グッズや部品、記念乗車券を販売したり、浦上車庫では車庫見学、本線上でも他都市から譲渡された電車のパレードも行われた。

電車開通100周年



100周年電車展会場

平成27年11月16日の開通100周年を迎えるにあたり、各種記念事業が実施された。

メイン事業となる「電車展」は長崎浜屋の催事場で6日間開催された。期間中は11,202人の来場者を迎え、大盛況のうちに閉幕した。

元204号を改造して新たに製作された花電車87号はLED照明の装飾と大胆に取り入れられた「ながにゃん」のデザインで大きな話題を呼び100周年に花を添えた。

「ながにゃん」は100周年記念の一環として制定された公式マスコットであり、イベントでの活動やLINEスタンプにより、企業イメージアップに一役かっている。



浜屋玄関での5000形台車展示



会場内の様子



新作Nゲージジオラマ



来場1万人目のご家族



電車展告知ポスター



100周年 PR 電車 (503号)



100周年花電車 (87号)



100周年記念乗車券



公式マスコットキャラクター



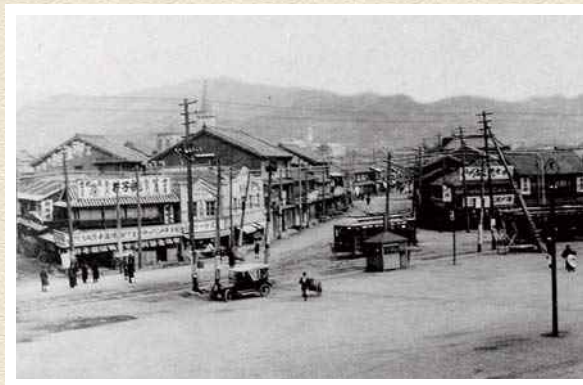
LINE スタンプ



開通前



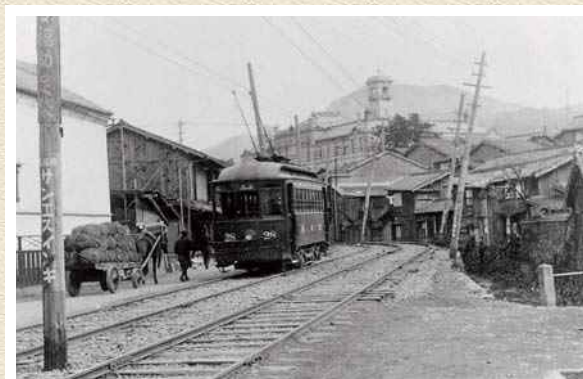
大正10年



開通前



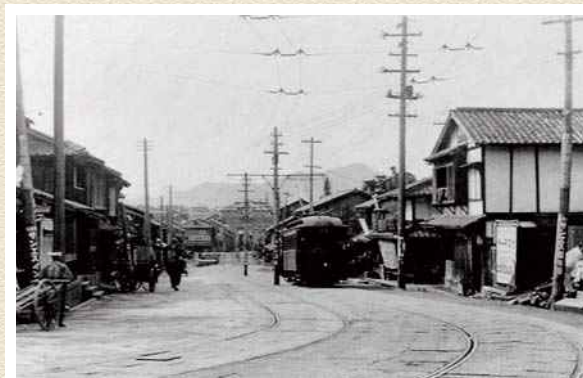
大正10年



開通前



大正10年



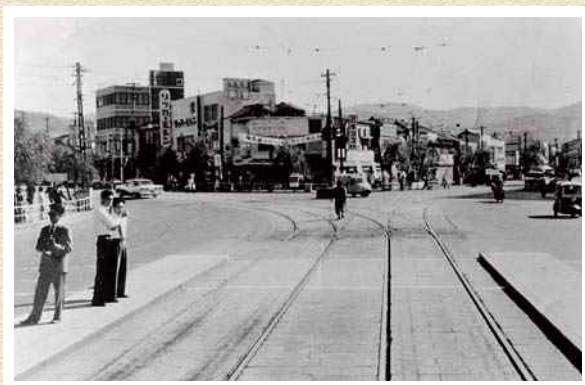
開通前



大正10年



昭和35年



平成27年



昭和29年頃



平成27年



昭和60年



平成27年



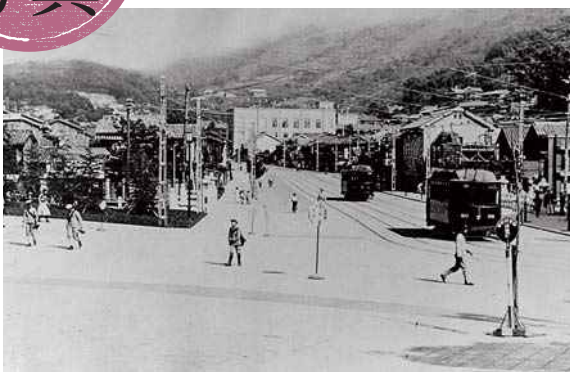
平成27年



今昔写真

諏訪神社前

昭和11年



昭和33年



昭和61年



新大工町

平成27年



昭和25年



蛭茶屋

昭和29年



開通前



正覚寺下

平成27年



平成27年



昭和61年



新中川町

平成27年



平成27年



昭和27年

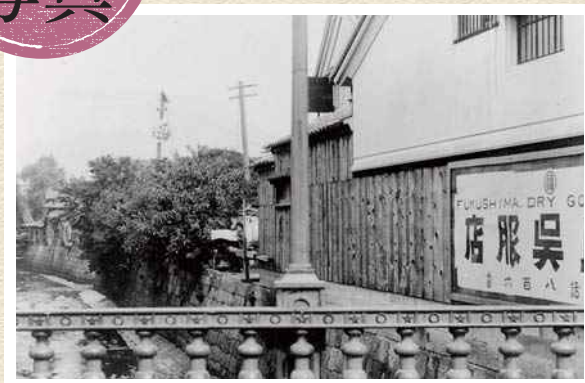


石橋

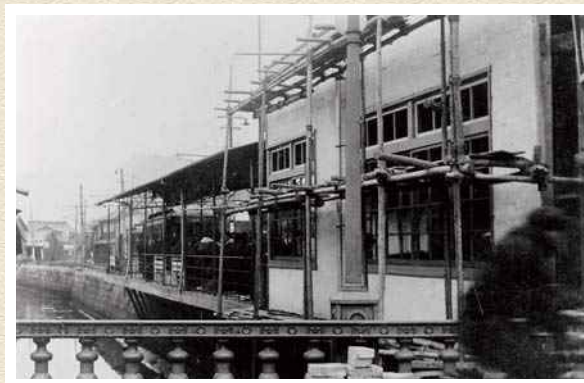
平成27年



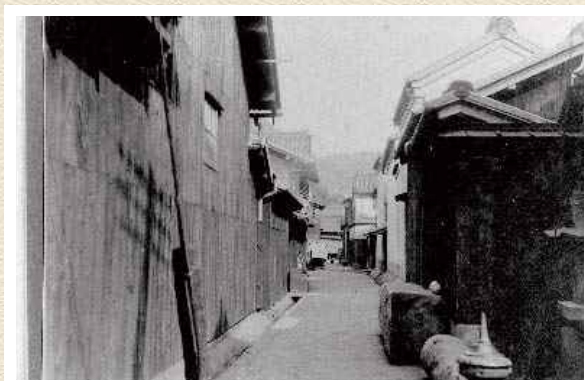
開通前



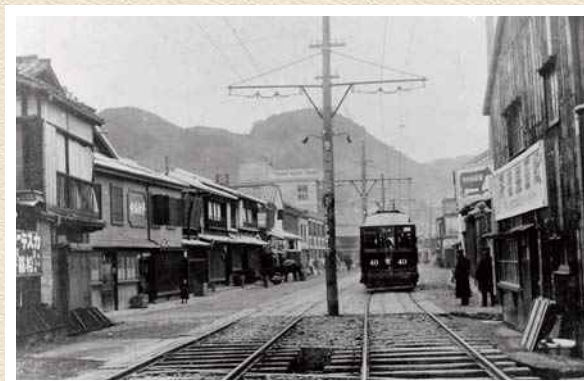
大正10年



開通前



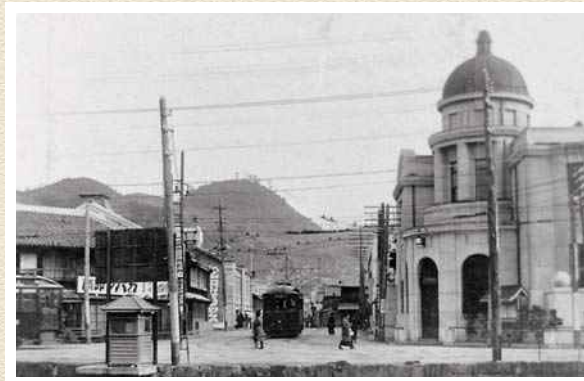
大正10年



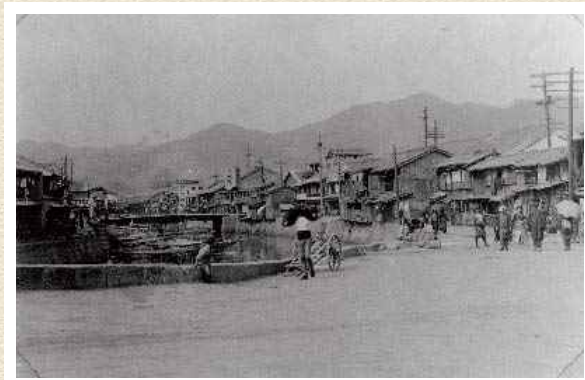
開通前



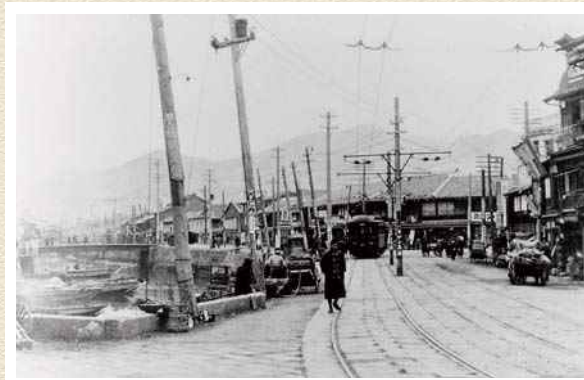
大正10年



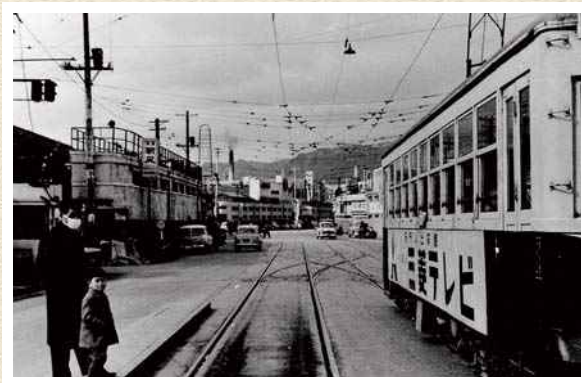
開通前



大正10年



昭和30年



平成27年



昭和35年



平成27年



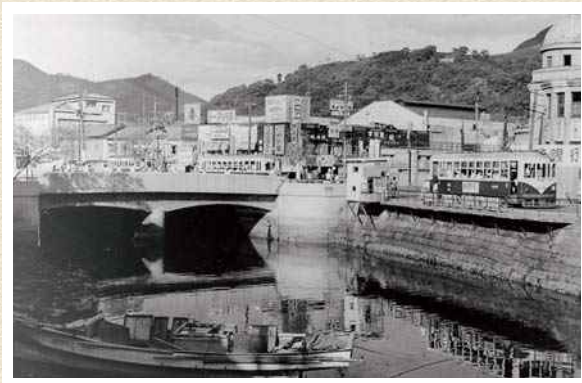
昭和43年



平成27年



昭和29年



平成27年



今昔写真

千馬町

大正10年



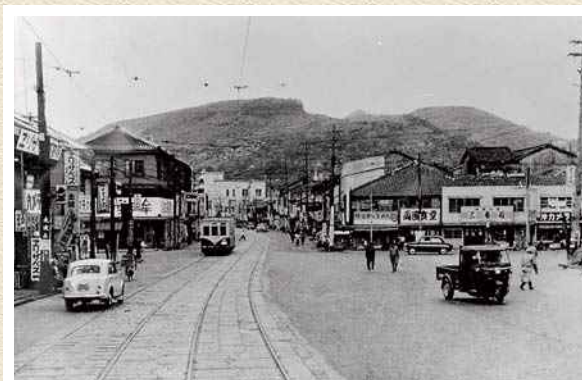
昭和28年



大正11年頃



昭和30年



大波止

開通前



大正10年



賑橋

昭和30年代



昭和43年頃



市民病院前

(出師橋)

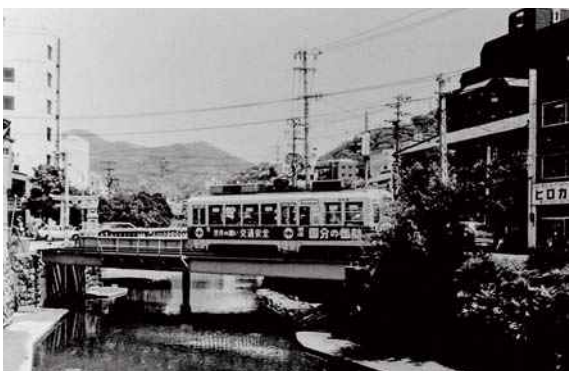
平成27年



平成27年



昭和59年



平成27年



平成27年



今昔写真

大浦天主堂下
(弁天橋)

昭和33年



昭和40年



昭和30年頃 (旧)



平成27年 (旧)



八千代町
(新旧)

昭和52年

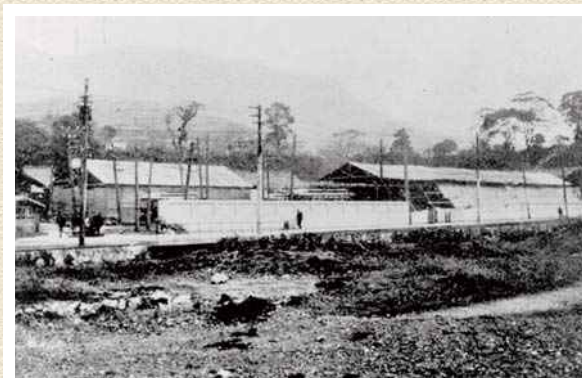


平成27年



宝町

大正10年



昭和55年

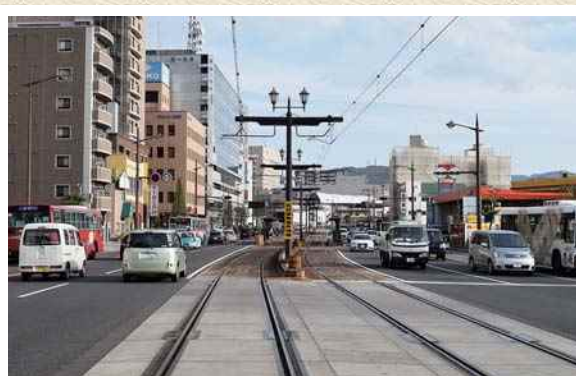


茂里町・茂里町車庫

平成27年



平成27年（新）



昭和28年



銭座町

（井樋の口）

平成27年



平成27年



浦上駅前

昭和22年



昭和30年代

浜口町
(下の川)



昭和45年



昭和30年頃

松山町



昭和34年頃



昭和25年

大橋



昭和27年



平成27年



昭和63年



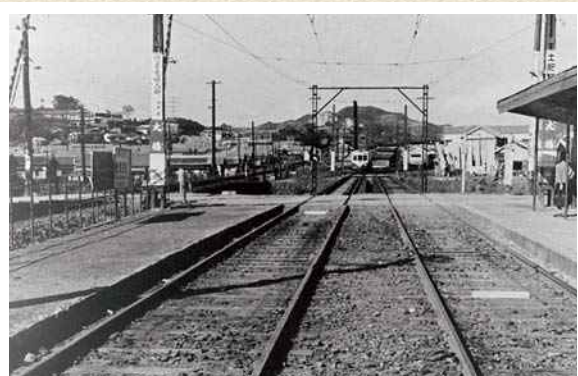
平成27年



平成27年



昭和32年



平成27年



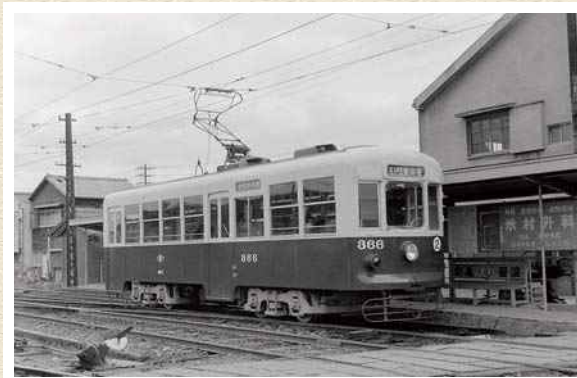
今昔写真

浦上車庫前

昭和28年



昭和40～50年代



昭和30年代



昭和30～40年代



岩屋橋

昭和25年



昭和28年



長崎大学前

(家野町)

昭和中期



昭和40年代



昭和町通

平成27年



平成27年



千歳町

平成27年



平成27年



若葉町

昭和39年



平成27年



平成27年



昭和25年



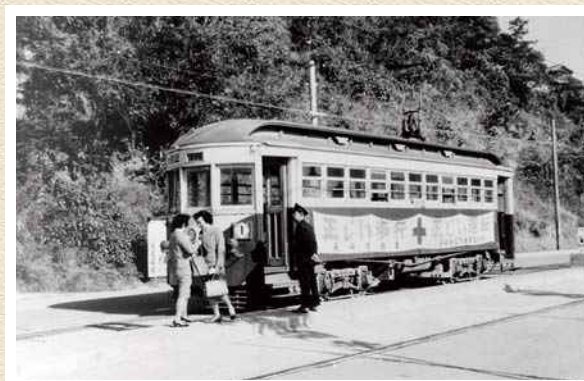
昭和32年



開通前



昭和35年



開通前



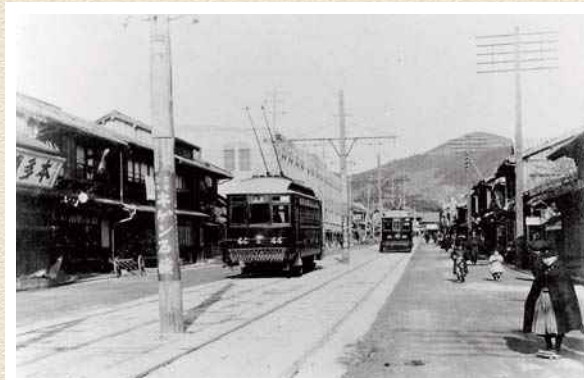
大正10年



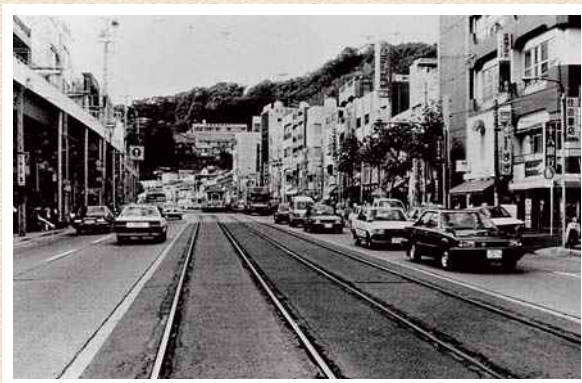
開通前



大正10年



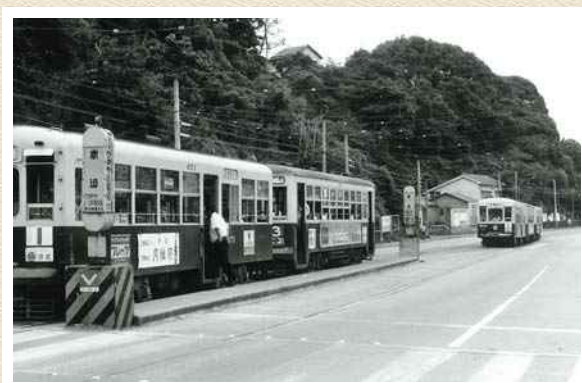
昭和60年



平成27年



昭和43年



平成27年



昭和50年頃



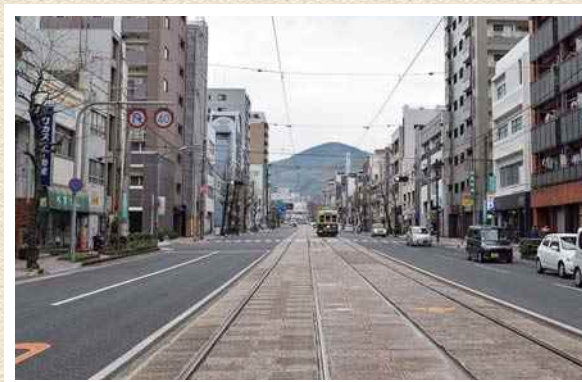
平成27年



昭和44年



平成27年



今昔写真

公会堂前交差点

昭和29年



昭和50年代



昭和40年代



西浜町アーケード前

平成27年



昭和35年頃



出島

平成27年



昭和43年



五島町

平成27年



平成27年



昭和50年

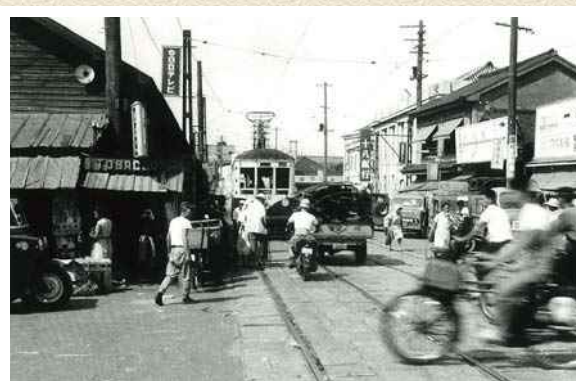


平成27年



大浦海岸通

昭和32年

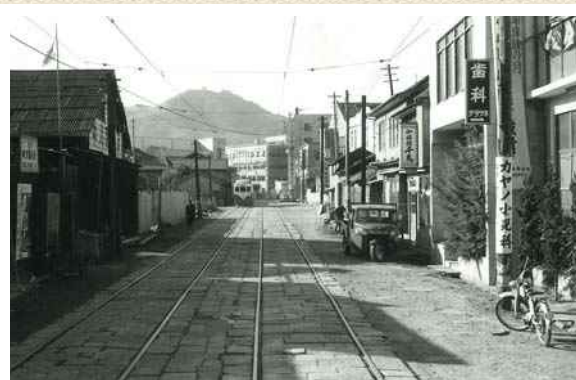


平成27年



築町

昭和35年



平成27年



出島、入江町間

これからの長崎電気軌道

近い将来、私たちは以下の項目の実現するために検討、研究を継続します。

【バリアフリー化】

低床車が増えると同時に停留場への階段接続解消、ホーム幅拡張。

【停留場、車内表示】

電子式のサイネージを導入し、情報の多言語化、双方向化。

【IC カード乗車券】

全国の交通系 IC カードとの相互利用。乗車券としてだけでなく、電子マネーとしてコンビニでの買い物等でも利用可能に。

【ナビゲーション】

スマートフォンのアプリ等で目的地を入力すると、乗車する電車、降車する停留場等をリアルタイムに案内。

【接触事故の防止】

ICT の活用で一般諸車と路面電車が相互の距離や挙動等を把握し、併用軌道における接触事故を未然に防止。